

# 2200日の物語 ～芝根の名のもとに～

第30話 (R03.12.17)

## ～ SOSの出し方 ～

誰にでも、うれしいとき、悲しいときがあります。心がモヤモヤするときもあります。モヤモヤする出来事があったときに、SOSが出せることはとても大切なことです。

SOSには、「出し方」、「受け止め方」など、重要なことがあります。

<p><b>1 「出し方」</b></p> <p>(1) 何を伝えればよいのか。 【例】出来事・感情・ その後の行動など</p> <p>(2) 誰に伝えればよいのか。 【例】友達や家族などの身近な存在</p>	<p><b>2 「受け止め方」</b></p> <p>(1) 何に気付けるのか。 【例】違和感を感じ取れる力</p> <p>(2) どのように声を掛けるか。 【例】「どうしたの。」「何かあった。」</p> <p>(3) どのように話を聞くか。 【例】傾聴、あいづち、目を見るな</p>
--	--

そこで、11月24日(水)に、児童委員がMeetを使って、全校児童に「SOSを出す」ことについて、伝えました。内容は次の通りです。

みなさん、おはようございます。

今日の児童集会は、芝根小全体で、「SOSの出し方」に目を向けていきたいと思  
います。この集会のあとに、どのクラスも、SOSについて考える時間があると思  
います。芝根小のみなさんに関係することなので、この機会にぜひ考えください。

まず、みなさんに質問です。

「SOSを出す」とはどういうことだと思いますか？1分間、席の近くの友達と考  
えてみてください。よーい、はじめ！

1分です。ありがとうございました。

では、答えです。「SOSを出す」とは「自分が困ったり、苦しかったり、気持ち  
がもやもやしたりしたときに、誰かに助けを求めること」をいいます。

(フリップ等でわかりやすく示す)

みなさんは今までに、自分以外の誰かにむけて、SOSを出したことがありますか？  
SOSを出したことがある人は手を挙げてください。

(ちょっと待つ Meetで教室を映し出せば、手の挙がり方が分かる)

手を下ろしてください。たくさんの方が手を挙げたかと思ひます。でも、手が挙げ  
られなかった人もいるのではないのでしょうか。



誰かに助けを求めることは、少し勇気がいることかもしれません。また、「どのように話したらいいかわからない」という人も、きっといると思います。

そこで、今回の児童集会では、SOSを出す練習をしてみたいと思います。みなさんも、自分たちのこととして考えてみてください。

ここで、児童が寸劇をしました。

それでは、みなさんで考えていきましょう。

昼休みの教室にAさんがいます。Aさんはどうも元気がないようです。

Aさん「はぁーーーー。」

実はAさん、20分休みの時にこんなことがありました。

Aさん「ねえねえBさん、消しゴムかして。」

Bさん「いいよ、はい。」

Aさん「ありがとう。(すごい勢いで消しゴムを使い、消しゴムがこわれる)」

Bさん「あっ……。」

Aさん「あっ、われちゃった！あはは。」

Bさん「あははじゃないよ！ひどいじゃんか。」

Aさん「もー消しゴムくらいでそんなに怒らないでよ。」

Bさん「もういいよ！うーん」泣きながら出て行く。

Aさん「あっ……」(手をBさんの方へ向けながらやっちゃったという顔)

→そのまま「はぁーーーー。」のため息モードになる

Aさん、どうやら友達を怒らせて傷つけてしまったようです。心がモヤモヤしていそうです。

今にも泣き出しそうなAさん。どうにかしてあげたいですね。そこへ、Aさんのところに、Cさんがやってきました。

Cさん「Aさん、元気ないけど、どうしたの？」

Aさん「うーん……。なんて言ったらいいんだろう……。うーん……。」

なかなか自分のモヤモヤした気持ちを言葉に出来ないAさん。

Aさん「うーん……。うーん……。うーん……………」

せっかくCさんが声をかけてくれたのに、Aさんは自分の気持ちを言葉に出来ません。こんなとき、AさんはCさんにホニャララすることができたら、自分の気持ちを整理することができるし、きっとすっきりするのに……。心のモヤモヤをすっきりさせることができるホニャララとは？みなさんは何だかわかりますか？

<後ろを「そうだん」と書かれた札をもった児童が通り過ぎる>

この後、各学級の学活で、児童はこのことについて考えました。ご家庭でも、ぜひ、子供と同じ目線がもてるように、SOSについて話し合ってください。学校でも、あたたかい環境をつくっていきます。

※実施してから少し時間がたっていますが、大切なことなので掲載しました。

